

長崎外国語大学（以下「本学」という。）は、「建学の精神」及び「教育の目的」を実現するために、教学上の「3つの方針」である「卒業認定・学位授与の方針（DP）」、「教育課程編成・実施の方針（CP）」及び「入学者受入れの方針（AP）」の達成状況、並びに学修成果・教育成果を把握・可視化する。また、それを教育の質保証に向けた改善に活かすために次の方針に基づき、教学上の成果について測定・評価（以下「アセスメント」という。）を行う。

- アセスメントは、「卒業認定・学位授与の方針（DP）」、「教育課程編成・実施の方針（CP）」及び「入学者受入れの方針（AP）」の3つの方針について行う。
  - 「卒業認定・学位授与の方針（DP）」に関して、以下のアセスメントを行う。
    - 「卒業認定・学位授与の方針（DP）」で求められている学修成果が、卒業時に学生によってどの程度達成されているのか。
    - 社会の大学に対する期待やニーズを踏まえ、「卒業認定・学位授与の方針（DP）」自体が建学の精神、大学の教育目的及び人材育成目標に照らして妥当かどうか。
  - 「教育課程編成・実施の方針」に関して、以下のアセスメントを行う。
    - 教育や学修が「教育課程編成・実施の方針（CP）」に則って適切に進められているか。
    - 学年進行に従って「卒業認定・学位授与の方針（DP）」で求められている学修成果・教育成果が達成されているか。
    - 「卒業認定・学位授与の方針（DP）」で求められている学修成果を達成するために、教育課程編成・実施方法等は適切かつ有効か。
  - 「入学者受入れの方針（AP）」に関して、以下のアセスメントを行う。
    - 建学の精神・学部学科の教育目的並びに「卒業認定・学位授与の方針（DP）」、「教育課程編成・実施の方針（CP）」を踏まえ、「入学者受入れの方針（AP）」で受け入れる学生に求めている学修成果（「学力の3要素」を含む。）が新入生においてどの程度達成されているかについてのアセスメントを中心に行う。
    - 「卒業認定・学位授与の方針（DP）」、「教育課程編成・実施の方針（CP）」に照らして「入学者受入れの方針（AP）」が妥当であるかどうかを「入学者受入れの方針（AP）」の達成度から検証する。
- アセスメントは、大学全体（機関）のレベル、学部学科（学位プログラム）のレベル、授業科目及授業のレベルの3つのレベルで行う。
- アセスメントは、質保証に向けたPDCAサイクルによる改革・改善プロセスのC（Check）として実施する。また、学修成果の点検・評価の結果は、教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックする。
- アセスメントは、内部質保証推進協議会の基本方針並びに自己点検・評価委員会の実施方針により、自己点検・評価小委員会が点検・評価活動の一環として行う。自己点検・点検・評価活動の体制、手続き等は、「長崎外国語大学 内部質保証に関する規程」の定めるところによる。
- 学修成果・教育成果の把握と評価を実施するに先立って、以下の6項目について点検・評価を行い、必要な改善を行う。
  - 学位プログラムの「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）において、卒業生が「何ができるようになるのか」が、専門分野に係る能力も含め、適切な観点から「～できる」という記述により定められていること。
  - カリキュラムマップ・ツリーの作成やナンバリングの実施等により、「卒業認定・学位授与の方針（DP）」に設定された各観点を満たす上で必要な授業科目が過不足なく体系的に編成されていること。
  - 学生の主体的な学修の前提として、個々の授業科目のシラバスにおいて、到達目標及び「卒業認定・学位授与の方針（DP）」との対応関係、成績評価基準並びに事前・事後学修の内容が学生に対し適切に示されていること。
  - 成績評価の方針が大学全体で統一され、学位プログラムにおいては各授業科目の授業内容や到達目標に応じた適切な成績評価手法が選択され、これに基づき個々の授業科目において厳格な成績評価が実施されていること。
  - 教育の成果に対し、学位プログラム共通の考え方や尺度に則った点検・評価が、点検・評価の目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについてあらかじめ定められた方針に基づき行われること。
  - 学生が「卒業認定・学位授与の方針（DP）」そのもの、及びシラバスに示された各科目の到達目標と「卒業認定・学位授与の方針（DP）」との対応関係や、単位制度の趣旨を理解していること。

■具体的なアセスメントの方法（第1版）

学修成果の把握と評価において使用する指標及び具体的な検証方法等は、次の表の通りである。

	入学時・入学後	在学中	卒業時（卒業後）
	●「入学者受入れの方針（AP）」で受け入れる学生に求めている学修成果（「学力の3要素」を含む。）が新入生においてどの程度達成されているかについての検証	●「教育課程編成・実施の方針（CP）」に則って学修が進められているかどうかの検証	●「卒業認定・学位授与の方針（DP）」を満たす人材になったかどうかの検証
大学全体レベル 特に、社会の大学に対する期待やニーズを踏まえ、「卒業認定・学位授与の方針（DP）」が大学の教育目的、人材育成目標に照らして妥当かどうかを学生の志望進路（就職率、専門領域へ就業率及び進学率、等）や「卒業認定・学位授与の方針（DP）」の達成状況から検証します。	1. 学生に求めている学修成果の検証 <u>A.総合型選抜</u> ○面接の結果 ○志願理由書、調査書、本人の記載する資料の内容 <u>B.学校推薦型選抜</u> ○小論文、面接の成績 ○調査書等の内容 ○資格・検定試験 <u>C.一般選抜</u> ○入学試験結果	1. 全学的、俯瞰的視点から「教育課程編成・実施の方針（CP）」に則って学修が進められているかどうかの検証 ○成績不振による指導学生数・その割合 ○退学者数・退学率 ○休学者数・休学率 ○全学生の単位修得状況 ○全学生の成績評価（GPA・GPT） ○全学生の成績分布 ○学修行動調査（学生生活実態調査）	○卒業生数・卒業率 ○学位授与数・授与率 ○大学院進学者数・進学率 ○就職状況・就職率 ○専門領域へ就業率 ○資格取得・国家試験合格実績 ○教員・公務員採用状況 ○卒業時満足度調査 ○卒業生アンケート ○就職・採用先アンケート
学位プログラムレベル （学部・学科レベル） 特に、学部・学科の教育課程の有効性	○資格・検定試験 <u>D.その他の検証資料</u> ○英語等の検定・資格の取得状況 ○留学生日本語能力試験証明書	1. 教育や学修が「教育課程編成・実施の方針（CP）」に則って適切に進められているかの検証 ○科目の開講状況、履修者数等	1. 卒業時において「卒業認定・学位授与の方針（DP）」で求められている学修成果・教育成果が達成されているかの検証

<p>（「卒業認定・学位授与の方針（DP）」に照らした教育効果）を学年進行に応じて卒業要件達成状況（単位取得状況・GPA）等から検証します。また外大力（DP2 汎用的能力）の獲得状況を学修成果として査定します。</p>	<p>○英語プレイスメントテストの成績 ○入学前教育プログラムの学修成果</p> <p><b>2. 入学時において学生に求めている学修成果及び入学後の学修状況の検証に基づく入学者選抜方法の妥当性の検証</b></p> <p>○学修成績、成績以外の学修成果、留年・中退率、卒業後の進路等の調査結果とのクロス分析等</p> <p><b>3. 「卒業認定・学位授与の方針（DP）」、「教育課程編成・実施の方針（CP）」に照らして「入学者受入れの方針（AP）」の妥当性の検証</b></p>	<p>○学生の単位取得状況 ○授業評価アンケートの結果</p> <p><b>2. 学年進行に従って「卒業認定・学位授与の方針（DP）」で求められている学修成果・教育成果が達成されているかの検証</b></p> <p><b>【DP の各学修成果の達成度の検証】</b></p> <p>○GPA、GPT ○成績分布等の資料 ○学生の自己評価、教員の評価 ○DP（学修成果 2）5 つの汎用的能力の獲得状況 ○外大プログラム（留学、インターンシップ、ボランティア、卒業研究等）の学修成果 ○外部語学力テスト ○外部汎用的能力テスト（PROG 等） ○資格取得状況</p> <p><b>3. 「卒業認定・学位授与の方針（DP）」で求められている学修成果を達成するために、教育課程編成・実施方法等は適切かつ有効かの検証</b></p> <p>○DP の各学修成果の達成度</p>	<p>○GPA、GPT ○学生の自己評価、教員の評価 ○成績分布等 外大プログラム（留学、インターンシップ、ボランティア、卒業研究等）の学修成果 ○外部語学力テスト ○汎用的能力テスト（PROG 等） ○資格取得状況</p>
<p><b>授業科目レベル</b></p> <p>「教育課程編成・実施の方針（CP）」を踏まえ、個々の授業科目についてシラバスで提示された授業設計・教授法の妥当性・有効性を検証します。また、授業等科目の学修目標に対する評価の妥当性（客観的かつ厳格な成績評価の検証）と学修成果の達成状況を査定します。</p>		<p><b>1. シラバスで提示された授業設計・教授法の妥当性・有効性の検証</b></p> <p>○DP との整合性 ○シラバス記載内容 ○ティーチング・ポートフォリオ ○授業評価アンケート</p> <p><b>2. 授業科目の学修目標に対する評価の妥当性（客観的かつ厳格な成績評価）の検証</b></p> <p>○科目合格率・科目 GPA・当該授業科目における成績分布を成績評価ガイドラインに照らして検証</p>	

【凡例】

- : アセスメント…各アセスメントの実施、及びデータ作成を担当する部署、及びその実施時期
- : 点検・評価 …各アセスメントの結果を点検・評価（検証+問題点抽出+改善策立案）を担当する部署、及びその実施時期
- : 最終評価 …上記点検・評価の結果、及び改善策の妥当性を検証（自己点検・評価委員会が担当、必要に応じて大学協議会で協議）
- : 改善 …学長の最終判断の後、内部質保証推進協議会を通じて各担当部署に改善指示がなされ改善に取り組む（その実施時期）

- ASM : 「Assessor」による測定・分析の可否
- : 「Assessor」による測定・分析が可能な項目
- △ : 「Assessor」による測定・分析が一部手入力等を経れば可能な項目

【フェーズ1 入学時・入学後】

「入学者受入れの方針（AP）」で受け入れる学生に求めている学修成果（「学力の3要素」を含む。）が新入生においてどの程度達成されているかについての検証

項目	ASM	アセスメント実施者 (データ作成担当)	点検・評価実施者 (改善立案含む)	実施時期														
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
<b>1. 学生に求めている学修成果の検証</b>																		
A.総合型選抜（当年度入試） ○面接の結果		入試広報部	入学委員会	データ作成（当年度入学者）	点検・評価	最終評価（自己点検・評価委員会） ↓	改善（次々年度入試要項に反映）											
A.総合型選抜 ○志願理由書、調査書、本人の記載する資料の内容	○																	
B.学校推薦型選抜 ○小論文、面接の成績																		
B.学校推薦型選抜 ○調査書等の内容																		
B.学校推薦型選抜 ○資格・検定試験	○																	
C.一般選抜 ○入学試験結果																		
C.一般選抜 ○資格・検定試験	○																	
D.その他の検証資料 ○英語等の検定・資格の取得状況	○																	
D.その他の検証資料 ○留学生日本語能力試験証明書	○							入試広報部 (国際交流センター)										
D.その他の検証資料 ○英語プレイスメントテストの成績	○							教育支援部 (現代英語学科)										
D.その他の検証資料 ○入学前教育プログラムの学修成果	○	入試広報部																
<b>2. 入学時において学生に求めている学修成果及び入学後の学修状況の検証に基づく入学者選抜方法の妥当性の検証</b>																		
○学修成績、成績以外の学修成果、留年・中退率、卒業後の進路等の調査結果とのクロス分析等		入試広報部 学生支援部 キャリアセンター	教学 IR 委員会 ※大学全体レベル	(前年度卒業者) データ作成	点検・評価	同 上												
<b>3. 「卒業認定・学位授与の方針（DP）」、「教育課程編成・実施の方針（CP）」に照らして「入学者受入れの方針（AP）」の妥当性の検証</b>																		
○「卒業認定・学位授与の方針（DP）」、「教育課程編成・実施の方針（CP）」に照らして「入学者受入れの方針（AP）」の妥当性の検証		入試広報部 教育支援部	教学 IR 委員会 ※大学全体レベル	(前年度卒業者) データ作成	点検・評価	同 上												

【フェーズ2 在学中】

《フェーズ2-A 大学全体レベル》

特に、社会の大学に対する期待やニーズを踏まえ、「卒業認定・学位授与の方針（DP）」が大学の教育目的、人材育成目標に照らして妥当かどうかを学生の志望進路（就職率、専門領域へ就業率及び進学率、等）や「卒業認定・学位授与の方針（DP）」の達成状況から検証します。

項目	ASM	アセスメント実施者 (データ作成担当)	点検・評価実施者 (改善立案含む)	実施時期											
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
<b>1. 全学的、俯瞰的視点から「教育課程編成・実施の方針（CP）」に則って学修が進められているかどうかの検証</b>															
○成績不振による指導学生数・その割合		学生支援部	教学 IR 委員会	データ作成 (前年度及び当年度5月1日)	点検・評価	最終評価	(当年度秋学期に反映) 改善 (次年度に反映)					データ作成(当年度)			
○退学者数・退学率															
○休学者数・休学率															
○全学生の単位修得状況	△														
○全学生の成績評価 (GPA・GPT)	△														
○全学生の成績分布	△														
○学修行動調査 (学生生活実態調査)		学生支援部 ※文科省「全国学生調査」 に一部統合も検討	教学 IR 委員会		(当年度春)	アセスメント	(当年度秋学期) 改善 (当年度秋学期)					データ作成(当年度)			
				データ作成 (前年度)	点検・評価	最終評価									

《フェーズ2-B 学位プログラムレベル（学部・学科レベル）》

特に、学部・学科の教育課程の有効性（「卒業認定・学位授与の方針（DP）」に照らした教育効果）を学年進行に応じて卒業要件達成状況（単位取得状況・GPA）等から検証します。また外大力（DP2 汎用的能力）の獲得状況を学修成果として査定します。

項目	ASM	アセスメント実施者 (データ作成担当)	点検・評価実施者 (改善立案含む)	実施時期													
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
<b>1. 教育や学修が「教育課程編成・実施の方針（CP）」に則って適切に進められているかの検証</b>																	
○科目の開講状況、履修者数等	○	教育支援部	教育支援委員会						データ作成 (当年度)	点検・評価	最終評価	カリキュラムに反映 改善(次年度の)					
○学生の単位取得状況	○								データ作成 (前年度)								
○授業評価アンケートの結果		教育支援部	教育支援委員会		(当年度春)	アセスメント	(当年度秋)					データ作成					
				データ作成 (前年度)		点検・評価						最終評価	(次年度反映) 改善				
<b>2. 学年進行に従って「卒業認定・学位授与の方針（DP）」で求められている学修成果・教育成果が達成されているかの検証【DPの各学修成果の達成度の検証】</b>																	
○GPA、GPT	○	教育支援部	教学 IR 委員会 (現代英語学科) (国際コミュニケーション学科)	データ作成 (前年度)					点検・評価	最終評価	(当年度秋学期の施策に反映) 改善 (次年度のカリキュラムに反映)					データ作成(当年度)	
○成績分布等の資料	○																
○学生の自己評価、教員の評価	○																
○DP (学修成果 2) 5つの汎用的能力の獲得状況	○																
○外大プログラム(留学、インターンシップ、ボランティア、卒業研究等)の学修成果	○																
○外部語学力テスト	○																社会連携センター (学修支援センター)
○外部汎用的能力テスト (PROG等)	○																教育支援部
○資格取得状況	○																旅程管理研修機関事務局 キャリアセンター
<b>3. 「卒業認定・学位授与の方針（DP）」で求められている学修成果を達成するために、教育課程編成・実施方法等は適切かつ有効かの検証</b>																	
○DPの各学修成果の達成度	○	教育支援部	教学 IR 委員会 (現代英語学科) (国際コミュニケーション学科)	同上	同上	同上	同上					同上					

《フェーズ 2-C 授業科目レベル》

「教育課程編成・実施の方針（CP）」を踏まえ、個々の授業科目についてシラバスで提示された授業設計・教授法の妥当性・有効性を検証します。また、授業等科目の学修目標に対する評価の妥当性（客観的かつ厳格な成績評価の検証）と学修成果の達成状況を査定します。

項目	ASM	アセスメント実施者 (データ作成担当)	点検・評価実施者 (改善立案含む)	実施時期											
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
<b>1. シラバスで提示された授業設計・教授法の妥当性・有効性の検証</b>															
○DP との整合性	○	各教員	シラバス改善委員会	点検・評価 (当年度春)					点検・評価 (当年度秋)	最終評価	改善 (次年度の シラバスに反映)	データ作成 (次年度シラバス)			点検・評価 (次年度)
○シラバス記載内容	△														
○ティーチング・ポートフォリオ		各教員 (取り纏め：総務課)	外国語学部長 (学部運営会議)			データ作成 (前年度実績まで)			点検・評価	最終評価	改善 (次年度に反映)				
○授業評価アンケート		教育支援部	教員 SD(FD)委員会				アセスメント (当年度春)					アセスメント (当年度秋)			データ作成
				データ作成 (前年度)				点検・評価	最終評価	改善 (次年度に反映)					
<b>2. 授業科目の学修目標に対する評価の妥当性（客観的かつ厳格な成績評価）の検証</b>															
○科目合格率・科目 GPA・当該授業科目における成績分布を成績評価ガイドラインに照らして検証	○	教育支援部	教育支援委員会			データ作成 (前年度)			点検・評価	最終評価	改善 (次年度に反映)				

【フェーズ 3 卒業時（卒業後）】

「卒業認定・学位授与の方針（DP）」を満たす人材になったかどうかの検証

《フェーズ 3-A 大学全体レベル》

特に、社会の大学に対する期待やニーズを踏まえ、「卒業認定・学位授与の方針（DP）」が大学の教育目的、人材育成目標に照らして妥当かどうかを学生の志望進路（就職率、専門領域へ就業率及び進学率、等）や「卒業認定・学位授与の方針（DP）」の達成状況から検証します。

項目	ASM	アセスメント実施者 (データ作成担当)	点検・評価実施者 (改善立案含む)	実施時期												
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
○卒業者数・卒業率		学生支援部														
○学位授与数・授与率																
○大学院進学者数・進学率		キャリアセンター														
○就職状況・就職率																
○専門領域へ就業率																
○資格取得・国家試験合格実績	○	教職センター 旅程管理研修機関事務局 キャリアセンター	教学 IR 委員会			データ作成 (前年度及び当年度5月1日)		点検・評価	最終評価	改善 (次年度施策に反映)						
○教員・公務員採用状況		キャリアセンター 教職センター														
○卒業時満足度調査	○	教育支援部														

